

平成 29 年 12 月 21 日
秋田県建設部 河川砂防課
国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所

第4回 秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

議 事 要 旨

1. 検討会の概要

日 時:平成 29 年 3 月 13 日(月)13:30~15:30

場 所:秋田拠点センターアルヴェ

出席者:(学識経験者)井良沢委員、大場委員、林委員、檜垣委員、三浦委員
(専門機関、行政機関)ほか 12 委員

2. 検討概要

(1) 議事内容

- 1) 前回議事録の確認と指摘事項への対応
- 2) 緊急時に実施する対策の検討
- 3) 緊急調査の検討
- 4) 平常時からの準備事項の検討
- 5) 秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画の目次構成(案)について
- 6) 今後のスケジュールについて(次回以降)

3. 議事概要

委員からの主な意見等は次のとおり。

1) 前回議事録の確認と指摘事項への対応

- ・ 特に意見なし

2) 緊急時に実施する対策の検討

- ・ 玉川温泉上流の緊急ハード対策予定地は、搬入路など今後詳細な検討を進めること。
- ・ 玉川温泉の上流は、火山活動が活発で相当な火山ガスが出ているため、人命に関わる硫化水素ガスなど火山ガスの安全対策が非常に重要である。
- ・ 減災であるため、土砂がある程度堆積しても仕方がないというのは問題ないと思うが、保全対象に応じて、どの程度まで守るのかという方針を火山噴火緊急減災対策砂防計画に明確に位置付けることが望ましい。

- ・ 緊急ソフト対策は電力を要する観測計器が多い。降灰によって電力の供給に障害が発生する可能性があることから、緊急時でも電力を確保出来るかチェックする必要がある。
- ・ 監視カメラによる観測は、山頂付近で雲があると状況を把握出来ない問題がある。山頂が目視できない場合の対応をマニュアル化。また、ヘリコプターや SAR 衛星を活用した監視、土砂移動センサー類に頼らない工事の中止判断など運用面からの対策を追加検討すること。
- ・ 気象庁が秋田焼山の山頂に監視カメラを設置したのは良い対策である。気象庁が有効なデータ観測機器等を設置しているため、避難支援で活用するのがいいのではないか。また、気象庁と現地とのホットラインも有効である。
- ・ 広域的な変化の把握として、UAV（無人航空機の総称）や LP（航空レーザー測量）の他、SAR（合成開口レーダ）など広域的な監視についても検討すること。また、積雪期から融雪期の土砂流出状況を把握するため、濁度計などの観測計器の活用を検討する。
- ・ 玉川温泉は、警戒区域に近接しているためセンサー設置箇所の選定が難しく、センサーの設置箇所へのアクセスについても課題がある場所に置かざるを得ない。また、保全対象まで到達する時間的な余裕もないものと推測される。このような場所では、工事中止基準の引き下げなどセンサー以外の運用を含めた対策が必要である。

3) 緊急調査の検討

- ・ 特に意見なし

4) 平常時からの準備事項の検討

- ・ 平常時の準備は、概念的な検討が多いため、役割分担までは厳しいと思うが、もう少し踏み込んだ検討をすること。

5) 秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画の目次構成(案)について

- ・ 参考のために比較した火山噴火緊急減災対策砂防計画の目次構成で、鳥海山の計画では「タイムライン」と表記するなど時系列を意識した概念がある。秋田焼山の火山噴火緊急減災対策砂防計画では、時系列的な思想を計画に反映させるように留意すること。

6) 今後のスケジュールについて(次回以降)

- ・ 他火山の火山噴火緊急減災対策砂防計画では、いかに実践的に対応していくかが課題である。実践的に対応するためには、平常時の準備を計画的に進めていくことが重要である。実効性を高めるため「行動計画」などの整備を火山噴火緊急減災対策砂防計画策定以降に検討して頂くと良い。
- ・ 秋田県では、秋田駒ヶ岳と鳥海山が先行で火山噴火緊急減災対策砂防計画が策定されているため、現在の対応状況をレビューし、具体的な対応を検討するのがよい。いざというときに的確な対応ができるためには、やはり具体的なところをどれだけ準備しているかということであるため、計画策定後の対応メニューを検討すること。

以上